

咽頭結膜熱(プール熱)

県感染症情報センター



▽咽頭結膜熱の流行
今年是全国的に、咽頭結膜熱(いんとうけつまくねつ)が流行しています。咽頭結膜熱とは、子どもの夏かぜとして代表的な病気のひとつで、アデノウイルスの感染が原因となります。一般に「主として小学生の間で季節性の流行をする」と言われていますが、感染症発生動向調査では、5歳以下が約6割を占めています。

▽症状
咽頭結膜熱は発熱

子供の夏かぜの一つ

今年全国的に流行中

今年全国的に流行中

(38〜39度)で発症し、頭痛、食欲不振、全身けん怠感とともに、咽頭炎によるのどの痛み、結膜炎に伴う結膜の充血、目の痛み、光がまぶしい、涙目(なみだめ)、目やになど

咽頭結膜熱は通常夏期に地域全体で流行し、6月頃から徐々に増加しはじめ、7〜8月にピークを迎えるといわれています。また、小規模ですが、冬期に

せきやくしゃみなどを介した飛沫(まつ)感染(飛び散る飛沫へしぶき)に病原体が含まれていて、口や鼻などの粘膜から感染すること、あるいは手指を介した接触感染(患者、病原体の付着した物品などに接触して感染すること)であり、目の

も流行がみられることがあります。▽アデノウイルスに介した接触感染(患者、病原体の付着した物品などに接触して感染すること)であり、目の

結膜あるいは上気道(鼻のど)から感染します。この病気は、以前には夏にプール水を介して流行することがあったため「プール熱」と呼ばれていました。この場合には、汚染した水から結膜へ、ウイルスが直接侵入すると考えられています。現在は、塩素による消毒など水質管理が徹底しているため、プール水での感染はまれと考えられています。ちなみに、アデノという言葉は、元来「腺(せん)」という意味です。のどの扁桃腺(へんとうせん)が肥大する病気(アデノイド)から、このウイルスが見つかったことで、アデノウイルスという名前がついたとされています。

例年に比べて患者発生がかなり多い状態です。アデノウイルスは種類が多いため、何度か同じ病気になる場合もあります。今年(2017年)は、全国的に咽頭結膜熱の患者発生が多くなっています。その中でも、奈良県における患者発生状況は、表に示す通り、今年(2017年)の第14週(4月3〜9日)以降、都道府県別の順位が連続して上位に入っており、

奈良県における咽頭結膜熱の発生状況(奈良県感染症発生動向調査から)



平成29年の奈良県における咽頭結膜熱の定点当たり患者数の全国順位

週	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
順位	2位	4位	2位	1位	2位	1位	3位	4位	3位	3位	6位	5位	6位

(感染症発生動向調査より)
※第14週=4月3日〜9日/第26週=6月26日〜7月2日

▽予防と対処法
予防には、流水とせっけんによる手洗い、うがいをする、感染した人との密接な接触を避け、タオルを別にすることで。プールから上がったときは、シャワーを浴び、うがいをしましょう。もし咽頭結膜熱にかかってしまった場合、特別な治療法はありませんが、ほとんど自然に治ります。目の症状が強い場合には、眼科的治療が必要になることがあります。高熱が比較の長(5日前後)続くことがあり、吐き気、頭痛の強いときは、せきが激しいときは、早めに医療機関に相談してください。

学校保健法では、主な症状がなくなつてから2日間経過するまで、原則として出席停止とされています。

(県感染症情報センター)
第2木曜日掲載